



秋田高と福岡県立明善高。両野球部OB初の交流戦が11月に東京・東大球場で行われた。

秋高 同窓会 だより



(3面) 豊口 祐一 新会長挨拶

(4面) 辻会長をしのぶ

(5面) 記念講演 成 田 裕 介 氏

(6~7面) ポラリス 石 井 絃 先生

(8面) 新春随想 渡 部 麻 実 さん

(8面) 明善高とのOB交流野球

総会、役員会
つどい
文芸部
部活動の記録

20年度総会

豊口氏(昭和34年卒)が新会長に

平成二十年度同窓会通常総会は、八月十七日(日)午後二時より秋田市のシャインプラザ平安閣において開催された。県内外から約百二十名の会員が出席し、会は鈴木明夫氏(昭四十五年卒)の司会で進められ、新会長に豊口祐一氏(昭和三十四年卒)が承認され、副会長に三浦廣巳氏(昭和四十四年卒)が新任された。

最初に校歌五番まで斉唱。次いで物故会員に全員で黙祷を捧げた。次に次第に従って進められた総会の概要を記す。

◎山谷三二会長代行あいさつ

辻会長が七月五日に亡くなられ、今年の総会は私が会長代行として司会をしますが、まずは辻さんのご冥福をお祈りいたします。

出会いはいろいろありましたが、年一回旧制高校の寮歌祭というものがあり、私も世話役をやらせていただいていたお陰で辻さんの一橋の校歌や寮歌を三十年くらい聞いていました。あの通りの声です。

ごい声量でした。

そして平成十五年十月丸山会長の後任に辻さんが会長となつて四年と六か月、現役の経済人としてのお忙しさの中、同窓会長として全国、県内、秋田市内どこの同窓会にも万障繰り合わせて出席されていきました。また経済人である辻さんは同窓会の財政を大変心配されていました。ことに平成七年に会則が変わり、全員会費制ということで財政基盤も安定してきてはいたものの、ここ数年前年度より会費を納める人が少しずつ減ってきていたところでした。けれども平成十九年度の会費納入率が前年度プラス相当増え、このことについては病床にあつて苦しかっただろう辻さん心から喜んでおられたように感じます。

昭和二十七年に同窓会長が同窓生から出るということになつて大体五十年になりましたが会長が現職のまま亡くなられたのは今回が初めてです。会長代行という例は一回あります。こんなわけで今日の総

会の運営等いろいろご意見ご不満もありませんがご理解の上、ご協力をお願いいたします。

◎菊谷一校長あいさつ

この四月から校長職に就いた秋高昭和四十四年卒菊谷一です。まずもって辻吉様のご冥福をお祈りいたします。辻様には昭和四十七年五月から五十四年五月まで七年間、本校第十六代PTA会長として様々なご意見やご提言をいただき、また今年の入学式では同窓会長として進学状況や部活動等に並々ならぬ期待を寄せておいででした。

学校の事情について申し上げます。

昨年の秋田国体には本校生十八名が出場し、天皇杯、皇后杯獲得に貢献しました。また、今年六月、県立北欧の森



で全国植樹祭があり、会場の設計に当たられた安藤忠雄氏秋田に来られた際、本校で講演いただき、高校生対象の講演は稀ということでした。が貴重なお話を伺いました。

次に、昨年、小六と中三対象の全国学力テストが行われ、本県はすばらしい結果でしたが、逆に本県の高校教育が問われる形になりました。また、本県では少子化が速いスピードで進行しており毎年小中学校が数校ずつなくなっていて、だからこそ人材育成に取り組まなければならない、特に県を代表する本校ではとの思いを強くしているところです。

人事面については、今年から副校長制が設けられ、本校には知事公室総務課長であつた昭四十八年卒石井周悦氏を迎えました。具体的な仕事は今までの学校教育に欠けていたスピード・合理性・対外的交渉など教育環境の整備です。また県では本県の弱点とされる高校理数教科に知的刺激を注入しようと博士号所有者五名を採用し、本校にはブラックホール研究で博士号を持つ内田先生が配置されました。七月の秋高祭では全県の博士号所有者が集まつてもらいシンポジウムを開催しました。更に今他県との教師の

人事交流が行われており、本校には盛岡一高の阿部先生がおいでになり刺激を受けているところです。

さて校舎の耐震診断の結果、昭和三十六年にできた大体育館の改修に着手することになりました。来年度完成予定でその後旧体育館を解体し二十二年三月の卒業式から使用する予定、これに伴いラグビー場確保のため剣道場を数メートル移動。また北棟も耐震工事のため改修工事に入ります。

長年本校は全校生徒十クラス千二百名でしたが、平成十二年から学級減となり、現在各学年八クラス九百四十二名ではほぼ四割が女子生徒です。また三年前に高校入試制度が大きく変わり、学区制が取り除かれ全県一区となりましたが、影響は少なく秋田市出身者が約八割です。またこの春の卒業生三百十八名の進路状況は、三百十七名の進学希望者の内、実際の進学者は国公立大百三十、私立大六十七、私立短大二、残り百十八名が再挑戦です。現役では東大五、京大一、北大五、東北大二十三、一橋大三など。私立では早稲田八、慶応五、など。四十七都道府県比較で東大進学者は四十四位、東北大十一位で、東北六位以内に入ってお

らず、秋高の奮起を求める声が高くなっています。

次に部活動ですが、運動部加入率はほぼ四十五%前後で推移。全県総体は男子テニスが団体、シングルス、ダブルスで優勝、インターハイ出場。登山は二位でインターハイ。剣道団体二位、卓球団体、ダブルス三位、ラグビー三位、ボート男子シングルスカル、ダブルスカル二位、また少林寺拳法は団体演武一位で全国

私は、平成二十年八月十七日開催された県立秋田高等学校同窓会において、ご逝去された前会長の辻兵吉氏の後を受け後任会長に選任されました。

立派な先輩が数多くいらっしゃる中で、長い歴史と伝統を誇る秋田高等学校同窓会長として、果たして適任であるかどうか忸怩たる思いがありますが、同窓会員の皆様のご鞭撻とご協力を得て、同窓会のために全力を尽くしたいと思ひますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

私は秋田高校昭和三十四年卒業です。出身は鹿角市ですが、田舎にいてはものにならないと両親が思ったのか、中学校から秋田市に来て秋田高校に入学しました。私が在学

大会に出場。文化部では放送委員会朗読部門で最優秀賞、将棋男子団体優勝で全国大会出場、放送委員会の研究発表部門と新聞委員会も全国大会出場です。これから文芸部が短歌甲子園に出場します。

皆さまのご指導を得、今後も本校発展のために尽力したい。

◎報告

最初に仙波昭彦事務局長から資料に基づいて会務事業報

告が行われ、次いで常置委員報告では、企画・佐々木博良、財政・速水洋子、名簿・工藤雄一、広報・高島清子の各委員長からそれぞれに関する事項の報告がなされた。

◎議事

最初に平成十九年度収支決算について事務局長より説明され、久米田和太郎監事の監査報告があり、審議承認された。次いで平成二十年事業計画・収支予算(案)が提言

を開き、現在に至っております。

私は同窓会では財政委員会の委員長を長らく務めておりましたが、平成七年からは、同窓会員の皆様から会費を納入していただき、同窓会を運営するようになりました。同



会長就任に当たって

秋田高等学校同窓会

会長 豊 口 祐 一

世の感があります。私は秋田高校卒業後、大学を出て弁護士になり、約三年間東京で弁護士として働きましたが、長男ということもあって父から秋田に帰ってくるようにいわれ、昭和四十八年に秋田市に戻り、法律事務所

告が行われ、次いで常置委員報告では、企画・佐々木博良、財政・速水洋子、名簿・工藤雄一、広報・高島清子の各委員長からそれぞれに関する事項の報告がなされた。

私の同窓会長としての使命は、同窓会活動をより活性化することであると考えております。そのためには会員の皆様とのコミュニケーションを

され、これも審議承認された。質疑応答があり、次いで役員改選に入ったが山谷会長代行から「役員改選については平成十五年の方式で選考委員会を作っておこないたい」旨提唱され、秋元辰二氏(昭三十七年卒)、小玉康延氏(昭三十七年卒)、山谷会長代行、速水財政委員長、工藤名簿委員長、五人が選考委員となり、会長に豊口祐一(新任・昭三十四年卒)、副会長に山谷浩

図り、より多くの会員に同窓会への関心を持っていただき、会費も納めていただけるようにして、同窓会運営の財政的基盤を充実させなければなら

ないと考えております。平成二十年十月には同窓会名簿第三十九号を刊行いたしました。が、辻前

会長は常々秋田高校の卒業生として、お互いに心のつながりを強くするために

は同窓会名簿は欠かせないものであると話しておられましたが、私も同感です。

私は同窓会長に就任後、各常置委員会の委員の方々にそれぞれの立場から同窓会を活性化させるための方策を考えて下さるようお願いしており

二(昭二十年四卒)、高橋智徳(昭四十年卒)、藤盛節子(昭四十二年卒)、三浦廣巳(新任・昭四十四年卒)、菊谷一(昭四十五年卒・校長)、監事に久米田和太郎(昭三十八年卒)、鎌田壽(昭四十二年卒)、高橋正毅(昭四十五年卒)各氏が推薦され、承認された。

総会終了後、記念講演、懇親会が行われ今年度の同窓会総会が閉じられた。

ですが、会員の皆様からも同窓会を活性化させるための忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

同窓会の今後がどのようなべきかは難しい問題ですが、会員の皆様のご意見を十分お聞きし模索しながら、時の流れに遅れないように、また文武両道に秀でることをモットーとする智、徳、勇の三剣の校章に恥じないように、秋田高校及び同窓会の一層の発展を期して努力したいと考えております。会長を補佐してくださる山谷、高橋、藤盛、三浦、菊谷の各副会長ともども頑張っていきたいと思ひますので、会員の皆様のおお層のご支援とご協力をお願い申し上げます。就任に当たってのご挨拶とさせていただきます。

堀川高(京都)に生徒派遣 佐々木杯コンテスト実施 —役員会で菊谷校長—

事務局の十三名であった。
挨拶に続き、報告があり、
次いで議事に入った。概要は

平成二十年
度第二回役員
会は、十一月
十四日(月)
午後五時から、
秋田市のシャ
インプラザ平
安閣において
開催された。
出席者は豊
口祐一会長以
下副会長、監
事、参与、常
置委員会委員
長、事務局長、

次の通りである。
一、あいさつ

豊口祐一 会長

会長就任後初めての役員会となる。就任後九月から県内外の同窓会に出席したが皆さん素晴らしい方々だった。頑張っていると思っている。

菊谷 一 校長

体育館工事が遅れている。北棟は十二月に工事が完了しその後小体育館の補強工事に入る。今年度高校生を他校に派遣する事業が実施されており本校からは十二名が参加し、来週、京都堀川高校で授業を受けることになっている。また、後期総合学習でディスカ

ッション、プレゼン能力を高めるために佐々木毅杯をかけたコンテストを行った。

二、報告

①会務事業報告・後期事業日程について

仙波昭彦事務局長から十一月十四日までの会務事業報告と十月からの後期事業日程説明がなされた。

②常置委員会報告(各委員長)

・企画委員会(佐々木博良)
当番年次は五と六のつく学年(昭三十五、平三二)入会式・同窓会活動の活性化について等

・当番年次の会(同)入会式・激励者の選考・「同

窓会だより」協賛広告について等

・財政委員会(速水洋子)
二十一年度一般会計予算(案)・収入増加策の具体化について等

・名簿委員会(工藤雄一)
名簿状況報告・名簿三十九号発行について等
・広報委員会(高島清子)
「同窓会だより」八十四号は二十一年一月十五日発行予定等

三、議事

①平成二十年度収支中間報告書(各会計の中間報告)
②平成二十一年度同窓会運営上の諸問題

“辻先輩さようなら”



縁あって副会長として四年八月、会長代行二か月、平成二十年八月十七日の総会で昭和三十四年卒豊口副会長が新会長に選任され、これまでの副会長は留任、新しく三浦

氏が副会長に選任されました。

私は秋田中学に昭和十六年四月に入學しました。手形の校舎では剣道・柔道場は同一棟板戸で仕切られ、隣の柔道場からの三年生辻良一氏の大きな気合いを耳にしながらか剣道部一年生の私は稽古した思い出があります。戦後秋田高校にお世話になり創立八十周年・九十周年・百周年記念各行事等を教職員として体験、昭和四十年後半・五十年前半はPTA会長の辻氏と校務上

連絡の機会が多く特に昭和五十年代後半からは同窓会副会長となられた辻氏とはお会いする機会が増えいろいろご指導を受けました。平成十五年十月、百三十周年記念行事終了後の総会で辻氏が会長に就任し「同窓会だより」での挨拶文に、平成六年の会則改正(全員会費制等)について詳細に説明されておりました。これは秋高OBで経済界の名士として長年母校の各種行事等に協力されてこられた「思い」を述べられたものと感じました。現役の実業人、文化・スポーツ・各種団体の

要職に関係されておられた超多忙な辻会長でしたが、同窓会支部等の集まりには事情の許す限り出席されるので、私はこのことは「会長としての執念」と感じておりました。秋田高校同窓会の財政についてはいろいろな面でご配慮を頂きましたが、今度のご病気の時も平成十九年度会費納入者数が前年度より増加したことを本当に心から喜んでおられました。辻さんのご冥福を心からお祈りします。

昭和二十年(四年)卒

副会長 山谷 浩二

天上天下

地球に衝突する可能性のある物体は「地球近傍小天体」(NEO)と呼ばれ、これまでに約四百個発見されているらしいが、正確な実態の把握には到っていないという。この十五年以内で地球に最も接近したNEOは、「一九九四XM1」と名付けられた小天体で、これは地球から十五万五千キロのところを掠め過ぎていく。地球と月の間の三分の一以下の距離だから、大宇宙のなかではほとんど衝突と同じと言ってよいのかもしれない。▼全米天文学協会は、西暦二〇二八年十月二十六日の午後五時三十分、直径一・五キロの小惑星が地球に大接近すると予想している。直接衝突する可能性は小さいようだが、地球の周りの人工天体は現在よりもさらに多くなっているから、何らかの影響はあるのかもしれない。▼六千万年前、地球上を跋扈していた巨大な恐竜たちは一個の小天体の衝突によって全滅に追い込まれた。人類がどのような形で衰亡していくのか想像はつかないが、少なくとも、自分の手で自分を滅ぼしてしまうような愚だけは絶対に避けたいものである。

講演要旨

映画監督って何だ！

映画監督 成田 裕介 氏（昭和46年卒）

映画界に入ったのは不純な動機からだ。高校卒業後、何かをやりたいという情熱を持ちながら定まらず、二十数種の職業を転々とした。

そんなある日、なじみの飲み屋での知り合いに、「お前は『コレ』をこますのがうまいから『コレ』を二人も

かかえて女優に仕立て上げたら『左うちわ』だぜっ」と言われた。

その後、映画の世界をまったく知らない駄目だから一度『現場』に行つてこい、と紹介されたのがピンク映画だった。

監督は高橋伴明さん。いきなり女優の『前振り』を作られた。最後はフィルムを編集用に仕分けし、機械で切ったり張ったりと一本の映画を仕上げるまでやらされた。これがこの世界に入るきっかけ。映画を一本撮ると言ってもピンからキリまである。通常九十分の映画を撮る場合、毎日三十人以上のスタッフが動いて、一カットずつを撮り上



【略歴】1971年3月秋田高校卒業。本名・成田裕一。20数種の職業を経験後1976年、偶然にも映画界の知遇を得る。1987年、テレビシリーズ「あぶない刑事」で監督昇進。日本映画監督協会常務理事、日本宝塚映画監督協会正会員、日本アカデミー賞協会正会員、メディア芸術大学メヅナ学芸学部教授。

げる、地味な仕事が続く。二週間から一カ月、制作費は億から数十億、数百億までかかる。その点、ピンク映画の制作費は、四十年前から三百万円前後と変わらない。十人前後のスタッフが何から何までやって、四日で撮り上げる。そのうち二日は徹夜の作業。監督は、一時間ほどの作品の中に女優の裸を二十分ほど入れれば、あとは何をやってもいいことになっている。どんな過激なものであろうが、自分の表現したいものを堂々と盛り込める。制作に一切の制約がないことである。

松竹など既存の映画会社が一本の映画を撮るためには、膨大な費用とリスクを伴うので、社員をほとんど採用しない。現在上映されている映画のほとんどは、フリーの集団、

自営業者が撮っている。その七割以上は、ピンク映画育ちの監督だ。監督とは「百人いれば百通りのやり方がある」と言われている。その原点となる個性がどういうところに出ているか、それが一番のところでだと思っている。

若松孝二監督は、権威をことさら嫌う人だが面倒見の良い人でもある。この人に出会えたことが幸運だった。大島渚監督に紹介され『愛の亡霊』に四カ月付き合わされた。その

の後「大島組」に入って写真撮った。

やがて独立。監督となって二十数年。突然、大島渚の「御法度」の

撮影を手伝ってくれとの依頼が舞い込んだ。監督補といっても、ていどのいい助監督。それでも引き受けてよかった。撮影に約七十日。毎日外国人ジャーナリスト、プロデューサーが来客した。世界の映画人と英語を交えながら会話できたことが有意義な経験だった。

最後になるが、私としては、映画監督というものは、作品はそうであるが、自分の生き方でもありと確信している。

平成20年度 芸術鑑賞教室



秋田県民会館において十一月六日午前十時から秋田県民演奏家によるオーケストラ公演が開催されました。秋田高校の校歌が管弦楽によって演奏され会場が厳粛な雰囲気になりました。

指揮者体験コーナー

指揮者としてなかなかむずかしい左手の使い方方も大胆で、感動的な演奏に聴衆は惜しみない拍手を贈っていました。カルメン組曲からアルゴネーゼ、トレアードルの二曲は、重厚で華やかな響きがあったし、ベートーベンのエグモント序曲は音楽の推進力に満ちていて演奏力の高さを発揮していました。県内在住の、音楽の専門家を中心に編成されたこのオーケストラは、響きに透明度があり今後の活躍が大いに期待されています。

指揮者 川口 洋一郎

指揮者体験コーナーは、今日の演奏会の中で最も盛り上がったステージでした。ドボルザーク作曲交響曲第九番「新世界より」から第四楽章の冒頭の部分を使って、指揮者にチャレンジのステージ

はじめに：「日本の国土は美しい自然に恵まれており、水にも不自由のないよいところ」と、いろいろな外国に出張・滞在すると、しばしば実感します。しかしながら日本は環太平洋地震帯に位置しており、世界でも有数の地震・火山国で、地震・火山による被害は避けられません。しかしこの活発な地殻活動により、美しい国土や栄養豊かな土壌が生成され、多様な植物資源・海洋資源にも恵まれていきます。日本に生活する以上、地震のことをよく理解し対処していくことが必要です。有史以来、日本は多くの被害地震を経験しています。大きな地震はどこにでも発生するのではなく、起こるところは大体決まっております。気象庁の資料によると日本付近で、例えば二〇〇六年一年間に有感地震は約二千個発生し、M（マグニチュード）3より小さい地震は十萬個以上、震源が決定されています。一九九五年一月十七日に発生した兵庫県南部地震により、六千人以上の人が亡くなつてから十四年が経過しました。最近では二

ポラリス Polaris

〇〇八年五月十二日に中国の四川省で地震が発生し、死者・行方不明八万六千人以上と報告されています。このようなニュースに接するたびに地震の恐ろしさを改めて認識し、心が痛みます。また、地震予知研究の進展を改めて考えさせられ、研究意欲を鼓舞させられます。はたして地震予知は出来ないのでしょうか。私は実用的な予知は可能だと考え、研究を進めています。

日本の夢 地震予知

石 井

紘 (昭和34年卒)



地震発生の原動力…地震発生

生の原動力はプレート運動です。日本の東北地方の場合は三陸沖の日本海溝から太平洋プレートが沈み込んでおり、接している陸のプレートの水平方向の圧力と、摩擦による引きずり込みの力が作用します。限界に達すると、蓄積された歪を解消するために地震が発生します。これがプレート境界型地震で規模も大きく、数百年の間隔で発生します。

太平洋プレートによる圧力は内陸にも作用していますが、プレート境界から離れているために歪の蓄積速度は遅いのです。しかし、時間の経過と共に破壊の限界に近づき、地殻の弱いところから破壊します。これが内陸の地震です。従って内陸の地震の規模はプレート境界型地震より小さく、発生の間隔は長いのです。しかし、人間の生活している真下に起こるので被害が発生します。

(地震予知総合研究振興会
東濃地震科学研究所副所長、
東京大学名誉教授)

地震と病氣…地震発生と人

間の発病を比較対応すると、地震研究の難しさと地震予知研究の進め方が理解しやすいのです。地震の震源は病巣に對比できます。病氣には必ず兆候がある様に、地震にも前兆があります。地下深部で起こる震源から遠く離れたノイズの大きい地上で観測しているため、検知されないことが多いのです。病氣の場合は患部の検査が容易で患者が症

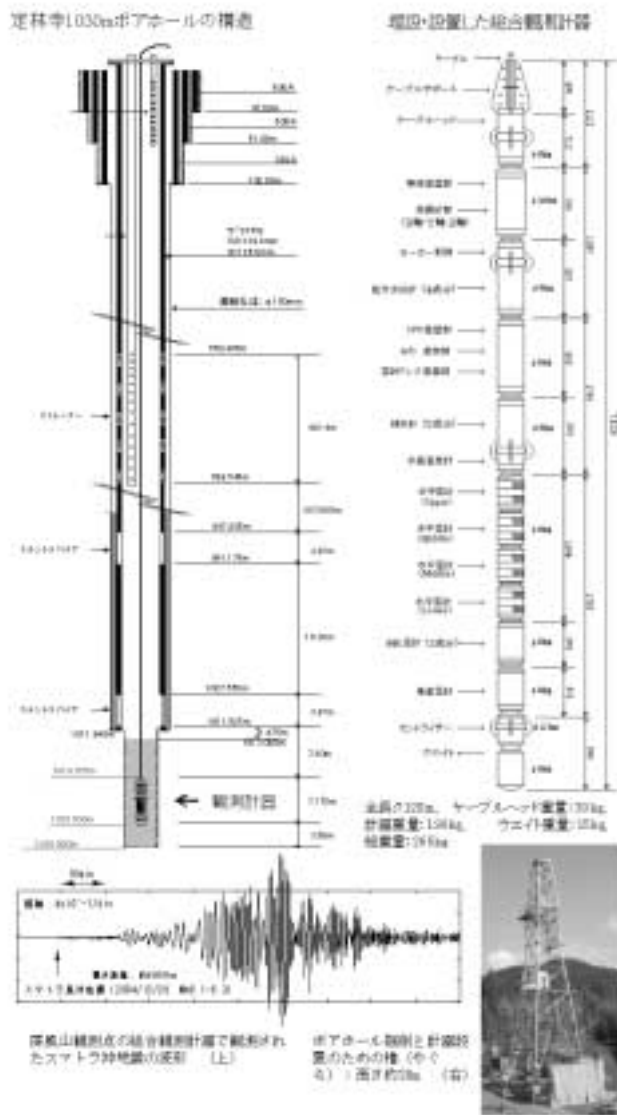
状を話してくれます。解剖などにより病巣を手にとって調べることが可能です。地震の場合は発生源が地下深部で直接の観測が困難です。同じ病氣でも人により現れる症状が異なる場合もあります。地震も場所により前兆現象の出現の仕方が異なります。同じ病氣を診断する機会が多いのですが、大きな地震の起こる間隔は数百年などと長いいため、観測データの蓄積も少なく、大地震を調べる機会が少ないのです。以前は聴診器による診断でしたが、今は内視鏡などで患部を直接見て診断します。以上の類推からも地震予知研究を加速するには、地上の観測のみではなく、地震が発生する岩盤内の、人工的ノイズがない地下深部において直接観測することが、最も有効な方法の一つであることがわかります。

地震の前兆現象とは…大きな地震の起こる前に地震と関連した異常な現象が観測された例がいくつかあります。しかしながら一般的には前兆現象の観測は困難です。震源の近くに観測点がないことや人工的なノイズのために、信号が消されたりするからです。地震は地殻内部の断層破壊ですが、物質が壊れるときには

必ず前兆的变化、特に変形があると考えられます。私たちの身の回りにおいても、物が壊れる前に、前兆的变化を知ることが多くあります。例えば割り箸(ばし)を曲げて折るときのことを考えます。箸に力を加えると変形(曲がり)が生じ、ミシミシと音がし始めて最後にポキンと折れます。この曲がる状態が地殻変動に対応し、ミシミシという音が微小地震・前震に対応し、折れる(破壊)前の前兆的現象と対応できます。しかしながらこの状態を遠く離れたところや、スリガラスを通して見ると、変形もよく見えないし、音も小さくなります。また雑音の大きいところで見ると、変形は分かりませんが音はよく聞こえません。これが現在、前兆変化が観測されにくい状況に対応します。すなわち地震が発生している地殻内部の観測ではなく、地表で観測しているからです。

地下深部における地殻活動総合観測…いくつか例をあげて述べたように、地震予知研究の突破口の一つは、地下深部における多項目観測であると考えています。図(7面)

は、長年開発している地殻活動総合観測計器と、定林寺観測点のボアホール構造です。



この計器は一台で十八成分もの異なる観測が出来るのです。深度1030mのところに設置し観測します。図の右下にボアホール掘削と計器設置のための槽（やぐら）の写真を載せてあります。地殻活動の総合観測では世界最深で最新のボアホール観測です。現在、このような観測が出来るのは日本だけです。気象庁、産業技術総合研究所や大学などでも採用され、東海地震、東南海地震や南海地震その他の研究のために有効な記録を蓄積しています。図の下には屏風山ボアホール観測点（深度1020m）の歪計で記録した、二〇〇四年十二月二十

六日スマトラ島沖地震の記録の一例です。震央距離が約6500kmと遠いにもかかわらず、大きな振幅の地震波が観測できています。如何に観測計器の感度がよいかかわると思います。地震波形を解析することによって断層の運動や地殻構造に関する情報を得ることが出来ます。

地震予知研究と今後…地震

地震予知研究と今後…地震を予知するためには地震の大きさ、場所、時期を知る必要があります。現在、大きさと場所は大体見当をつけることが出来ますが、時期を正確に知ることが最も困難なことです。日本のように社会システムが高度に進み、組織化され

ているところでは、予知の失敗による社会的影響や経済的損失が大きく、高い精度が要求されるわけです。今後、地下深部での感度の良い観測によって、プレート運動を明らかにすることにより、巨大地震の発生過程が解明されていくと考えています。文部科学省の科学技術政策研究所が多くの学者の考えを調査し二〇〇五年に公表した報告書「我が国における科学技術の状況と今後の発展の方向性」には、重要な科学技術に関する予測年表が記載されています。地震火山に関連した予測がいくつかある中で「プレート境界地震と内陸地震各々に

についてM7以上の地震発生の切迫度（場所と時期）を人的災害軽減につながるよう高精度で予測する技術」に関する社会的適用の予測時期は、二〇三〇年と記載されています。私も同様の考えです。天体の運行を正確に計算できるような地震予知は困難ですが、災害軽減に役立つ実用的な地震予知は夢ではありません。地震予知研究を進めるとともに災害に強い日本にするにはどうすればよいか研究することは、日本で最も国際貢献の出ることであります。

おわりに…日本の夢の一つは地震を予知する学問・研究を完成することと私は確信しています。大学に勤務して以来、一貫して地震および地震予知に関連した研究に携わることが出来ていることは、学者冥利と感謝しています。私は時折漢詩を作りますが、その中に「長大熱情」というタイトルの詩があります。今もこの気持ちを持ち続けているつもりです。若い皆さんも自分の進むべき道を見つけて信念と強い意志で進んでください。今年は秋高を卒業して五十年になります。この時に秋高の広報誌に一文を書く機会を得たのは感慨もひとしおです。

来ることでもあります。

おわりに…日本の夢の一つ

医療法人 祐愛会
加藤病院

院長 加藤 征夫
(昭和36年卒)

副院長 加藤 倫紀
(平成元年卒)

秋田県秋田市河辺戸島字上野4番地3

明治九年創業 老舗の味
料亭

志田屋

志田豊忠 (S36)

秋田市大町3丁目5-11
TEL 018-832-0432

市立秋田総合病院

院長
佐々木 秀 平
(昭和36年卒)

秋田市川元松丘町4番30号
TEL 018-823-4171
FAX 018-866-0797

人類は森から生まれた
「街に森を、緑を」
植樹ボランティア

グループ「森」

会長・川上茂樹(昭和45年卒)
石澤千秋(昭和46年卒)
田澤愼一(昭和46年卒)
林 康夫(昭和47年卒)
藤原彰人(昭和47年卒)
《事務局》018-828-3033

恩師訪問

武藤俊郎先生

母校に勤務なさった教職員の近況をお伝えするこの企画も十一回目。今回は、昭和二十九年三月の本校卒業生でもある国語科の武藤俊郎先生にお願いした。昨年十一月五日(水)に、わざわざ羽城館(同窓会館)までご足労願ひ、広報委員の柴山芳隆がいろいろお話を伺った。

初めに、秋田高校に勤務なさった時期を、校務分掌等も含めながらお知らせ下さい。

昭和四十五年四月に秋田北高から転勤して来まして、五十二年三月まで八年間勤務しました。赴任から六年間連続して担任し、その間に卒業生を二回出しました。分掌は進路や生徒指導が中心でしたが、軟式野球部の監督を六年間務めたことがとても印象に残っています。秋高から秋田工業に転出し、その後また北高に戻って平成八年三月に定年退職しましたが、その年一年間だけ、今度は講師として再度母校のお世話になりました。

軟式野球との関係が特に印象に残っておられるということですので、先生ご自身の体験も含めて、野球のことをもう少し詳しくお願いします。

私は子どもの頃から野球が好きで、中学校時代は野球部に所属しておりました。ポジ

ションはサードが中心でした。秋高に入ってからには汽車通学の関係で野球部は無理でしたが、大学(京大)では、少々ながらまた野球に取り組み、



ザルツブルグ城にて (2008・10・16)

関西六大学野球リーグの選手にもなったりしました。また、初任校である秋田北高ではずっとソフトボール部の顧問をしていたので、そういう経歴が目にとまって、軟式野球の監督を命じられたようです。

ただ、硬式と違って軟式はグラウンド、試合日程、審判など、さまざまな面で条件に恵まれておらず、部員も監督も苦勞が絶えませんでした。私

の場合は、秋高の監督と同時に、県高野連軟式部会の理事長も四年ほど務めなければなりませんでしたが、物理的にも結構大変でした。ひどい雨の中、全国大会の予選となる県大会を秋高のグラウンドで、やっと頼んで来てもらった二人だけの審判とともに実施した日のことなどを鮮明に記憶しています。ただ、苦勞を共にしたせいでしよう、監督と

親しい人たちと古典を楽しむ

選手の絆は大変強いものがあった。特に、私が担任していたクラスで軟式野球部に加わっていた生徒達は今でも我が家に遊びに来てくれます。

軟式野球以外の思い出となるとどういうことでしょうか。

それは、秋高の百周年の場に立ち合うことができたということでしょうね。『秋高百年史』の編纂事業にも関わりまして、主に運動部関係の記述を担当したほか、年表の作成などをまかせられたものでした。田沢湖で合宿作業をしたり校正のために東京まで出

かけたりしたものです。学校の先生、それも国語の先生になられた動機は何でしたでしょうか。

秋高に入学した年に古典を教わった鈴木勝三郎先生の授業に大きな感銘を受けたというのが最大の理由です。私はもともと、教科としては数学が好きでしたが、「万葉・古今・新古今」を中心にした鈴木先生の授業は実に魅力的で、私の中に古典に対する強い愛着を持たせてくれました。大学ではフランス文学に進みましたが、最終的には国語国文学を選び、

卒論は近松門左衛門の心中物にしました。卒業が近づいた頃、秋田北高の校長先生から京都の下宿に直接お手紙を頂戴し、そのまま北高に赴任することになった次第です。

定年退職なさった現在も、古典の分野でいろいろ活躍なさっておられるのをマスコミで拝見しています。そうした事と併せて最近のご様子をご紹介したいのですが。

土崎図書館主催の連続講演会が終了した折、その時の受講生を中心に「古典を楽しむ会」が結成され、それが、同

図書館を会場にして、現在まで十年ばかり続いています。近松の作品の他に『源氏物語』などを読んできました。また、民間の文学同好会が催す講演会にも毎年招かれています。

それらとは別に、自宅で和氣藹々のうちに家族や友人と古典を楽しんだりもしています。こちらも『万葉集』から始まって多くの古典を読んできました。また、「山湯会」という山の会にも参加して、駒ヶ岳など県内の山々の他、時には県外にも遠征して、マイペースで登山と温泉を楽しんでいます。海外旅行にも欧州を中心に四回出かけましたが、こちらも「のんびり」がモットーで、一番最近、昨年のウィーン探訪でした。

最後に、今の秋高生にひと言お願いしたいのですが。

それは、まず自分を豊かにしなさいということですね。どういう分野でも構いませんから、社会に出てからも心豊かに生きていけるものの基本を高校生の時分に見つけ出して欲しいと思います。また、秋高生は実に伸び伸びしていて、それはそれでこれから大事にして欲しいのですが、時には節度が必要だということも理解してもらえればと思います。



古稀・卒業50周年を祝う 秋高33卒、母校で特別授業も

九月十八日から十九日全国から八十九名が集う。初日、なつかしい秋田駅前集合。五十年前には「幻の手形山の新校舎」であった母校を表敬訪問。在校時三年間担任をされた畑澤潤一先生に願ひ、特別授業を開催。「孫達の算数と数学について」、ピタゴラスの定理を学び、古稀を迎えこれからの過ごし方など多くの示唆を含んだ名講義にただただ感動。菊谷校長より「学校概要」のご説明、仙波事務局長のご案内で校史資料館、同窓会羽城館を表敬訪問。母校の歴史に改めて感銘。その後、主会場「サンルーラル大湯」へ。年次総会、記念写真撮影し休憩。午

後六時より恩師畑澤先生、山谷先生をお招きし、石川裕久、脇坂良子両君の司会により「祝う会」を開催。物故者への黙祷、佐藤満雄代表幹事の挨拶、懐かしい写真のスライド上映、熊谷光太郎（東京代表）・金内信（関西代表）両君による乾杯、四斗樽二個の

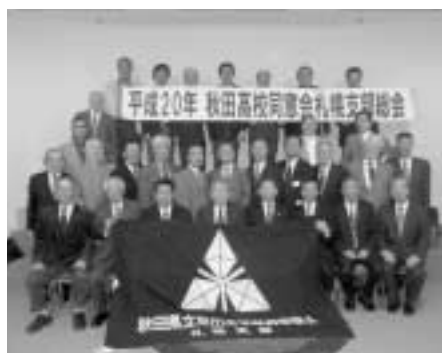
魅力的な 事業を計画

札幌支部 来年は創立30周年

去る十月十八日（土）、ホテルノースシティ（札幌市中央区）において札幌支部総会が開催された。今年は本部・母校から豊口会長、山谷副会長、石井副校長、仙波事務局長を来賓として迎え、総勢三十名であった。

加賀屋誠一支部長（昭和四十一卒）の挨拶では、播磨屋前支部長（昭和三十五卒）が札幌支部顧問となったことが報告された。その後、支部会則の改訂（案）が議題として提出され、全会一致で承認された。豊口会長のご祝辞の後、石井副校長からは母校の近況についてお話があり、現役生の文武両面での活躍や、今後の

鏡開き、「なまはげ郷神楽」の太鼓による歓迎。数十年前の参加の方も多く、記念で作った秋田杉の柙で樽酒を注ぎ、深夜まで盛大に語り合う。翌日、五十年前は湖底であり、干拓で変貌した大湯村内を入植者のご案内で見学（女子十一名は別コースで男鹿を



秋高の目標などが紹介された。今回、総会参加者には今野陽三さん（昭和二十・五卒）から自著が贈呈され、書名が「美しかった国、日本」となった経緯が説明された。祝宴は終始和やかな雰囲気で行われ、最後は校歌と「フレ！フレ！秋高」のエルが会場内に高らかに響いた。札幌支部は平成二十一年に創立三十周年を迎えます。ま

巡る。干拓博物館、刈り入れ直前のあきたこまちの黄金の稲穂にうっとり、懐かしい「はたぎ」も大歓迎。鑑賞温室を見学し、午後一時出発点の秋田駅前へ。再会を約し、同期生の更なる健勝を願いつつ散会する。（石川、佐藤記）

【完全予約制】 “未病を治す”

西治療院

院長
小林 正行

秋田県潟上市天王字追分西1-20
TEL & FAX : 018-872-1228

～もっと快適な未来環境の領域へ～



山岡工業株式会社

■本社 秋田市御所野湯本二丁目1-5

TEL 018-826-1616 FAX 018-826-1565

URL <http://www.yamaoka-ind.co.jp/>

■支店・営業所／仙台市・北秋田市・横手市

だ総会に参加されたことがない方（特に二十・五十歳代）も参加いただけるよう、役員会では魅力的な記念事業を計画中です。是非ご参加下さい。（昭和六十一卒 佐々木宏志）



田村鉄男氏のご講話を拝聴
茨城秋高会総会

平成二十年十一月二十二日（土）、水戸京成ホテルで十七回目の茨城秋高会総会を開催した。

同日、本総会に先だち開催された水戸一高創立百三十周年記念式典に出席された本部からの豊口会長、山谷副会長、仙波事務局長、学校側から石井副校長の来賓と、女子一名を含めた二十九名の出席者で開催した。

総会では年間活動と決算が報告、確認され本部、学校からは母校の近況等が報告された。

全員集合70歳！
H20・秋高32会総会

八月二十二日（ホテルメトロポリタン秋田に平成二十年度の「秋高32会」の総会が招集されました。今年は昨年の卒業五十周年の翌年と云うことで、集まり具合が懸念されましたが、遠くは関西河内長野市からも仲間が駆けつけてくれて、総員三十五名の出席を得て、それなりに元氣よく、



平成二十年十月四日、東京は品川《あきた美彩館Ⅱ》はな小町》に昭和三十二年卒業三年B組のかつての俊才一同、我々が「田ム鉄先生」の元へ十五名が集合しました。瞬間的に五十年前のホームルームの時間にタイムスリップして、



続いての懇親会は、秋田の蔵元から直送の吟醸生貯蔵酒の乾杯が始まったが、豊口会長を含めた昭和三十四年卒組が県外から三名、合わせて六名参加、盛り上げていただいた。高橋克己（三十八年卒）記

又活発に開催されました。この会がいつまでも継続するように気合いを込めて、校歌を

3年B組・田ム鉄先生
H20・東京編

（三十二年卒国安志郎）

歌い来年の再会を約し、解散いたしました。

談論風発、百家争鳴、それに秋田の地酒が発火点となり、人生を語り、旧友の消息、かつての仕事等、正に楽しいクラス会となりました。今年の先生のお言葉は、「キーワードは《水清く》海、山、川ましてや都会でも、水が清いことが基本である！そのためは諸君は直ちに山に行き、樹を植えなければならぬ！」御年八十四歳にして、地球環境を真剣に心配しておられました。更に「君たちも俺のように人材を育てなければ日本は危ないぞ！」と相変わらずの田ム鉄節を元氣一杯《檄》を飛ばしておられました。一同再会を約し、夕暮れの東京の街へと散会しました。

（三十二年卒国安志郎）

福田胃腸科クリニック

院長

福田 健

内科・消化器内科
外科・乳腺外科秋田市広面字家ノ下34-1
TEL 018-832-3535

「こんなことができれば
効率が上がるのに…」
「こんな装置や機械があると
便利だろうなあ…」

ideaが動きます。



株式会社 トーヨー

〒010-0802 秋田県外旭川字三後田76-4
TEL:018-868-5673(代)
FAX:018-868-5683
URL <http://www.toyo-akita.jp>
E-mail info@toyo-akita.jp



院長

設楽 芳宏

(昭和46年卒)

秋田県外旭川字前谷地43番1
TEL 018-816-0311
FAX 018-816-0312



株式会社 アートシステム

秋田市山王五丁目15番33号 〒010-0951
TEL.018-863-2652(代) FAX.018-865-4078

Creative Works

広告企画プロデュース

空間プロデュース

広告・媒体代理業務

建築設計

イベントプロデュース

45名が出席し 伊勢谷氏講演

近畿支部総会

秋田高校同窓会近畿支部の平成二十年度総会および懇親会が平成二十年十一月八日（土）大阪梅田の「大阪弥生会館」で開催された。会員、来賓合わせて約四十五名が出席、本部から豊口同窓会長、仙波事務局長、学校より菊谷校長にご出席を頂き盛況だった。総会は、物故者（例年になく多く辻前会長を含め六名）への黙祷で始まり、宇佐見支部長（昭三十三卒）の開会の挨拶、活動報告、会計報告と進められた。



恒例の講演は、伊勢谷祥三氏（昭三十四卒）が「船と航海の話」と題して航海士、船長時代のいろいろなエピソード

北秋田支部に 支部名を変更

鷹巣阿仁支部

北秋田支部（鷹巣阿仁支部改称）総会は、七月五日午後六時からホテルニュー松尾、耕ホールで開かれた。

記念撮影の後、奈良正人幹事長（昭四十一卒）が開会、藤原高司新会長（昭二十九卒）の挨拶に続き、山谷浩二同窓

ドを楽しく語ってくれた。記念撮影の後、懇親会に移り、支部長の挨拶、ご来賓の近畿秋田県人会会長初め僚校同窓会代表の方々のご紹介、豊口同窓会長のご挨拶、菊谷校長の母校の近況についてのご報告の後、前支部長渡邊良宏氏（昭二十卒）の乾杯の音頭で開宴。

お酒が入るとともに懇談の輪が広がった。途中、初参加の五名の方々の挨拶、プロジエクターにより、歌詞を映写しての校歌、交友会歌の合唱等盛り上がりを見せ予定の二時間は瞬く間に経過した。最後にまた来年の再会を約して散会となった。

（文責 鈴木 信）

終戦後の変革 思い出を語る

26年次同期会総会

昭和二十六年次同期会総会は、平成二十年十月十八日秋田市の協働大町ビルで、恩師の寺田光和先生、関東代表佐々木研吾氏と県外から今村辻原両氏の参加を得て開催した。

小泉会長の挨拶、物故者への黙祷の後、昨年度の会計決算並びに審議事項を承認。アトラクションでは、吉成俊太郎医師による「警察医と人間の終えん」と題した講話。来賓の寺田先生は乾布摩擦から始まる健康管理、一年ごとに

き、時間の経つのも忘れて閉会時間をオーバーするほど。最後は副支部長の小林宏農上小阿仁村長（昭三十一卒）の閉会の挨拶で、次回の再会を約して散会した。

翌日、辻会長がこの日逝去された報に接し、五年前の支部総会に出席された元気なお姿を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。 合掌
（事務局佐々木孝憲 記）



年齢を重ねてゆく人生の過ごし方、心構えを講話された。また、佐々木研吾氏は、関東地区の近況と旧制中学への入学、終戦後の学校生活に多様な経験を重ねたこと。そして教育制度の変革で学生生活にも自主的な面が認められ困惑した思い出を語った。乾杯の音頭で開宴、関東か

らの二名の出席で大いに盛り上がり、旧知を温めること約二時間、極めて有意義に過ごすことができた。

最後に、来年は喜寿。特別企画で同期会を催す予定でいるので多くの会員の出席を期待している。

（事務局太田洋生 記）



つ

どい

讃寿乾杯

秋中二〇四の会

秋中二〇四の会が、九月一日、秋田キャッスルホテルで二十三名の参加を得て開催された。

高松芳晴君の司会で、去る七月、同窓会の会長代行に就任した山谷浩二君の挨拶で開会。開宴後、岩手県遠野市か



ら初参加の久保木高君、元県議会議長の北林照助君のスピーチ。幹事の野手準二君からの、同期生二百五十人中すでに百二十人が鬼籍にとの報告に、傘寿を迎えた一同の感懐

もひとしおであった。

二〇四の会は、昭和二十四年卒の意であるが、入学は十六年、我々の在学期間は、まるまる太平洋戦争ということになる。その間、群馬県大田の中島飛行機工場への動員や少年志願兵としての軍隊生活など、「戦時」を抜きにし

放送部創立56年 6年振りOB会

六年振りの放送部OB会が、九月二十七日(土)秋田駅前「レストランニューたけや」で、会員十五名が参加して行われた。まず、会員である吉村和就氏(昭和四十二卒)から水問題についての講演をしてもらった。この後総会が行



て学校生活は語れない。

従って宴席での会話も戦争談義が多い。あとは年齢のせい健康。

しかし、宴の進むにつれて意気ますます軒昂。談論、美声、蜜声風発。和気藹々の中に讃寿に乾杯し、再会を約して散会した。(宮越郷平 記)

われ、大坂谷邦雄会長(昭和三十六卒)の挨拶の後、事業・決算・会計監査報告・役員全員留任などが承認された。懇親会は、物故会員の黙祷から始まった。赤沼有さん(昭和二十九卒)の乾杯で懇談となった。プロジェクト・投射で、過去の役員会や五十周年記念祝賀会・戸賀のキャンプ写真などを見ながら懇談した。全員に近況報告をしてもらい、懇親を深めた。最後に、昭和最後の卒業生兄弟が、校歌斉唱と万歳三唱をして、二年後の再会を期し散会した。

(代表幹事 高橋 伸)

話は尽きず

紫水会 (水泳部OB会)

平成二十年六月十八日、秋田市のニューたけやで紫水会(水泳部OB会)の総会と懇

平成20年度・3Gクラス会



昭和13年卒、3Gクラス会
於 プラザクリプトン 20年9月29日



親会を開催した。対象は、全員の把握が難しく昭和二十三年卒から昭和四十年卒頃まで徐々に範囲を拡大して行く予定。参加者は県外からも五名参加し十八名であった。総会では、加藤公朗会長の勇退にともない新会長に富樫仁英氏が選任された。

「つどい」の編集方針について (お知らせとお願い)

- 一、「つどい」の記事は写真を中心に、説明文はなるべく短くして下さい。
- 二、説明文や出席者名簿などの取り扱い、編集委員会(広報委員)にお任せ下さい。
- 三、締切に間に合った原稿はできるだけ全部掲載するように努めますが、「つどい」の寄稿は毎回数が多く、編集の都合上次号に回すこともあり、夏月号は六月上旬、新年号は十一月下旬となっております。

懇親会はあるという間に高校時代にタイムスリップ。駅前校舎の合宿所での出来事、帝石プールや空素沼での練習など思い出話は尽きない。終了時刻がきても終われそうもなかったが、次回必ず再会することを誓ってなんとか閉会の運びとなった。

(斉藤紀明・記)

新春随想

高校時代、私は優等生ではなかった。中学校の担任に「君の学力では秋田高校に合格するのは難しい。浪人させるのはかわいそうだから他の高校を受けてくれ」と懇願された程度の学力である。神の気まぐれか奇跡的に入学は出来たものの、授業について行けるはずもなく、私はよく学校をサボった。



高校生の小遣いでは行けるところは限られてくる。下浜海水浴場には四季を問わず行った。大森山動物園では猿山の前で何時間も粘った。そして図書館には毎日のように立ち寄った。

ある時、いつものように明徳図書館に入ろうとした私は足を止めた。入り口からすぐの検索機の前に父の姿を見つけたのだ。反射的に時計を見ると、午後三時。昼休みには遅すぎるし、終業までにはまだ時間がある。同じく私も放

課後といつてごまかせる時間ではなかった。見つかりませんように！私はきびすを返してその場から逃げるように立ち去った。

それから十年後、父は私が二十七歳の時に亡くなった。それまで親孝行らしいことを

父が遺してくれた夢

20年度「あきたの文芸」小説部門最優秀賞受賞

渡部 麻実 (平成6年卒)

何もできなかった私は、父の看病のために東京での仕事をやめて秋田に帰り、一緒に最期のときを過ごした。その日々を書いた小説が新聞に掲載されたが、父はそのことを知らずに逝った。母から父が若い頃小説家になりたかったのだと聞いたのも父の死後だった。それから、私は父のためというわけではないけれど、小説を書くことが今も頑張っている。

図書館で見かけたあの頃、もしかしたら父は窓際族だったのではないかと思う。毎日定時に帰ってきていたし、なんだか元気がなかった。あの時、私が話しかけたらなんと言っただろう。父は本が好きで、部屋は大きな本棚に占領されていた。勉強はできなかったけれど父の影響で本を読むことは好きだった私。たくさん本が今の私の血となり肉となっている。「高校の授業に出なくても、会社で机に縛られていなくても、学べるものはたくさんある」。父はそう言ってくるの

ではないだろうか。それともやっぱり「学生の自分は勉強だ」と叱られるだろうか。戻れるものならばあの日に戻って、父とたくさん小説談義をしたい。そして「私、小説家を目指してるの」と告白してみたい。父はきつと苦笑いして、落ちこぼれな私の頭を叩くだろう。そして洪々ながらも「頑張れよ」と言ってくれる気がする。

秋高OB、明善OB(福岡)に快勝

東京で初の交流野球

秋田高と福岡県立明善野球部OBの初の交流戦が十一月二十二日、小春日和の下、東京の東大球場で開かれた。明善は江戸時代の久留米藩(有馬藩)の藩校を前身とし、県立校に移行して来年百三周年を迎える伝統校。ともに野球部創部百年を超し、東京六大学野球の選手を数多く輩出しているのを縁に、昨年秋から交流が始まった。

高校長が始球式を行い、東大野球部の一年生三人が審判を務めた。人工芝グラウンドの東大球場と、現役の大東や旧部員を借り出せたのは、明善出身で東大野球部OBの力添えによる。試合は、秋田が二回裏、先発左腕投手の伊藤敬さん(昭和五十五年卒)が中越え三塁打を放って先制。投げても三



回を無安打無得点に抑え、主導権を握った。筑波大で昨年まで活躍した佐藤裕輝さん(平成十六年卒)ら元甲子園球児六人を擁する秋田は、打線がつながって着実に加点。この試合を企画した小玉正志さん(昭和五十四年卒)が六回をロングリリーフした。往年の名選手たちが攻守とも随所で好プレーを見せ、秋田が八対三で快勝した。

明善は、早大野球部OB会長の本村政治さん(昭和二十六年卒)が代打で出場。バツクネット裏から真つ赤な横断幕を掲げた応援団が声援を送るなど、野球の盛んな九州らしく、元気はつらつとしたチームカラーが印象的だった。明善の世話役で、小玉さんとともに交流のきっかけをつくった別府秀喜さん(電通パブリックリレーションズ常務)は「秋田に胸を借りるつもりで臨んだが、やはり風格があった。これを機にいろんな方面に交流を発展させたい」と、今後に期待を膨らませている。現役東大野球部員からフォークで見事三振を奪ってピンチを救った小玉さんは「現役東大生とも対戦できて気持ちよかった。これからさまざまな交流を続けていきたい」と話している。

文芸部

短歌甲子園二〇〇八（全国高校生短歌大会）が八月二十一日から二十三日までの三日間岩手県盛岡市で開催され、本校文芸部員がチームを組んで出場し、団体戦・個人戦に挑んだ。そして、個人戦において、本校二年生清野絵理さんの短歌が最優秀作品賞ならびに特別審査員・小島ゆかり賞をダブル受賞した。

個人戦は、出場した高校生百二十七名すべてが「城跡」「あこがれ」の二つのテーマで題詠し、その二百五十首余の短歌から「参加者・観客に

よる投票」によって選ばれた二十首を最終日の「公開決勝審査」によって審査した。清野さんの作品は

城跡や空の役目は
少年に何問われても
答えないこと
この歌はもちろん

最優秀作品賞 清野絵理さんが受賞



不來方のお城の草に寝ころびて／空に吸われし／十五の心と詠んだ石川啄木を想起させるものである。清野さんの歌の「少年」は百年前の啄木であり、今青春のただ中にある清野さん自身でもあるのだらう。特別審査員の小島ゆかり氏は「わたしたち人間にとつて自然とは何かという問題を、科学と異なる視点から捉えた

点でも見事な作品」と評した。団体戦は、出された題について先鋒、中堅、大将の三人がそれぞれ短歌を発表して対決。二勝したチームが勝つ仕組みだ。出場は十六道県の三十六校から三十九チーム。一次リーグが一ブロック三チームの十三ブロックで争われた。本校文芸部チームは清野絵理（二年）久嶋留悠那（二年）金森春香（一年）の三名。一次リーグを大宮開成（埼玉）に二対一、河瀬（滋賀）に二対一でそれぞれ勝利し最終日の決勝トーナメントに駒を進めた。十三チームで争われた決勝トーナメント一回戦の相手

はなんと同県対決、能代高校であった。（秋田県は二校出場であった）そこで、惜しくも一対二と敗退してしまった。団体戦の優勝校は魚津高校（富山）だったが、魚津高校部長の早川君は、昨年度の全国高等学校総合文化祭出雲大会の短歌部門に出場しており、本校の文芸部から出場した佐藤知香（三年）と同じグループになった縁があり、本校文芸部と部誌をやりとりする仲であったため、本校にとって二重の喜びとなった大会であった。来年度は、団体戦での優勝を期待したい。

部活動戦績

◆ラグビー

全国大会県予選
決勝 秋田19―35 中央
全県新人
2回戦 秋田15―26 秋田工
3位決定戦 秋田47―7 男鹿工

◆陸上競技

中央支部新人
〈男子〉
110 mH 近藤 道行 2位
高橋 智貴 3位
1600 mR 高橋 智貴 2位
（保坂、佐藤、船木、田口）
棒高跳 船木大資 1位
走幅跳 近藤道行 1位

〈女子〉

800 m 鈴木 契 1位
400 mH 中泉琴乃 2位
1600 mR 中泉、鈴木、工藤、池田 3位
七種競技 池田咲子 2位
トラック総合 2位
混合総合 2位
全県駅伝競走大会
男子 15位
女子 12位
全県新人
〈男子〉
100 m 高橋智貴 4位東北出場
500 m 田口大貴 3位東北出場
110 mH 近藤道行 3位東北出場
高橋智貴 5位

5000 mW

相場智仁 4位東北出場
400 mR 高橋、佐藤、船木 5位
（保坂、高橋、佐藤、船木）
1600 mR 船木大資 2位
（保坂、佐藤、船木、田口）
棒高跳 船木大資 1位東北出場
走幅跳 近藤道行 3位東北出場
トラック総合 5位
フィールド総合 6位
総合 5位
〈女子〉
800 m 鈴木 契 5位東北出場
400 mH 中泉琴乃 4位東北出場
1600 mR 中泉琴乃 7位

（中泉、鈴木、工藤、池田）

七種競技 池田咲子 3位東北出場
混合総合 4位
東北選抜 船木大資 2位
棒高跳 船木大資 2位

◆バスケットボール

全国選抜予選
2回戦 秋田84―95 男鹿工
中央支部新人
予選リーグ 秋田2勝1敗
決勝トーナメント出場決定戦 秋田86―96 秋田南

◆バレーボール

全県選抜優勝大会
男子 1回戦 秋田0―2 鷹巣
中央支部新人
予選 秋田2―0 本荘

準々決勝

秋田2―0 中央

決勝リーグ 秋田1―2 秋田南
秋田0―2 秋田工
秋田2―0 秋田西

◆卓球

中央支部新人
男子団体 第2位
決勝リーグ 秋田3―1 秋田工
秋田3―0 由利工
秋田0―3 秋田商

全県新人

男子団体決勝リーグ 2位
秋田3―1 大曲
秋田0―3 秋田商
秋田3―2 増田
◆バドミントン
中央支部新人

男子学校対抗 男子I部シングルス 須藤 嶺 第2位 男子I部ダブルス 須藤 嶺・大野峻喬 第3位 女子II部ダブルス 佐藤 薫・湊 文香 第3位 全県新人 男子団体 ベスト8 女子団体 初戦敗退 男子シングルス 須藤 嶺 第2位東北出場 女子II部ダブルス ベスト8 三浦 優・眞田愛里 女子II部シングルス 三浦 優 ベスト8	男子個人 牧野・佐藤組 ベスト8 女子団体 1回戦 秋田1―2花 輪 女子個人 2回戦 小林・大高0―4大館桂 中央支部新人 男子団体 優勝 男子シングルス 嵯峨 卓 優勝 伊藤 紘成 第2位 渡辺 匠 ベスト8 男子ダブルス 伊藤 紘成・嵯峨 卓 優勝 伊藤 紘成・嵯峨 卓 優勝 女子団体 第3位 女子シングルス 佐々木美緒 第3位 女子ダブルス 畠山理英 有坂美咲 第3位 全県新人 男子団体 第2位東北出場 決勝リーグ 秋田5―0明 桜 秋田4―1秋田商 秋田2―3秋田工 男子シングルス 伊藤 紘成 第4位 女子シングルス 佐々木美緒 ベスト8 全県ジュニア選手権 嵯峨 卓 優勝 伊藤 紘成 第3位 東北大会出場	準決勝 秋田2―2御所野 秋田0―2秋田商 中央支部新人 男子団体 優勝 個人 知識部門(同得点2名優勝) 三浦雅孝・成尾友博 読図部門 菅原恒平 優勝 気象部門 三浦雅孝 優勝 全県新人 男子団体 優勝 個人 総合 三浦 雅孝 優勝 菅原 恒平 第3位 成尾 友博 第3位 体力部門 成尾 友博 第2位 三浦 雅孝 第3位 知識部門 三浦雅孝 第2位 読図部門 三浦雅孝 優勝 天気図部門 三浦 雅孝 第2位 成尾 友博 第2位 相場 高平 第2位 中央支部新人 男子団体 第3位 男子個人 藤原 諒人 優勝 中央支部新人 男子団体 第2位 予選リーグBブロック 決勝リーグ2位(1勝1敗) ○秋田3―0新 屋× ×秋田1―2秋田商○ 男子個人 高橋 翔 第2位	足利 陸 ベスト8 女子個人 阿部 茜 ベスト8 全県新人 男子団体 第2位 予選リーグFブロック 1位(2勝) 決勝トーナメント 2回戦 ○秋田2―0湯 沢× 準決勝 ○秋田4―0能 代× 決勝 ×秋田0―2秋田南○ 男子個人 高橋 翔 優勝 足利 陸 準優勝 女子団体 予選リーグBブロック 2位(2勝1敗) ○秋田2―0湯 沢× ○秋田3―0花 輪× ×秋田0―1本 荘○ 中央支部新人 男子団体 第3位 1回戦 秋田○対 金足農 荘 2回戦 秋田 対○本 荘 敗者復活戦 秋田○対 秋田西 秋田○対 秋田商 男子個人 66kg級 近藤 俊 優勝 岩田 暢人 ベスト8 73kg級 藤井孝介 3位 90kg級 今野 啓祐 ベスト8 全県新人 男子団体 三浦 啓汰	準々決勝 秋田 ―○秋田中央 (ベスト8) 男子個人 66kg級 近藤 俊 優勝 73kg級 藤井孝介 3位 全県新人 男子舵手付クオドルプル 優勝 3分17秒 全県新人 男子 自由形50m 川村知裕 3位 200m 安田瑛紀 3位 平泳ぎ1000m 徳原尊雅 6位 越後屋瞬 8位 200m 徳原尊雅 6位 個人メドレー2000m 石川 昇汰 8位 400mリレー 川村、越後屋、石川、安田 6位 800mリレー (安田、徳原、石川、安田) 4位 400mメドレーリレー (石川、徳原、川村、安田) 5位 女子 背泳ぎ100m 浅村朱梨 3位 200m 浅村朱梨 6位 ◆硬式野球 『秋季中央地区高等学校野球大会』 2回戦 秋田7―12秋田工 敗者復活② 秋田0―5秋田西 全県大会出場ならず ◆軟式野球 1回戦 秋田9―3能代工 準決勝 秋田2―5秋田工 (延長13回)
---	---	---	---	--

会 務 事 項 報 告

20年
8・17 通常総会
9・29 宇都宮支部総会
10・2 企画委員会
10・6 東肥羽城会総会
10・10 財政委員会
10・12 追分三叉路会総会
10・16 名簿委員会
10・18 札幌支部総会
10・24 当番年次会議
10・27 広報委員会
10・28 会員名簿39号完成
11・8 近畿支部総会
11・14 役員会

事 務 局 だ よ り

11・15 男鹿支部総会
11・22 水戸一高百三十周年記念式典
11・22 茨城秋高会総会
11・26 由利本荘支部総会
11・28 汀友会総会
11・28 仙台支部総会
12・5 理事会
12・17 第3回企画委員会
1・20 第3回名簿委員会
1・15 「同窓会だより」八十四号発行

く完成しました。年次名簿委員、名簿委員会の皆様、関係各位には、心から御礼申し上げます。七十九頁、物故者に石川信一郎とありますが、石川様はご存命です。全くのミスであり、本当に申し訳ありませんでした。八百八十八頁、事務局の電話番号が間違っています。八三二一九五三三ではなく、八三二一九五五三です。これまたお詫びします。

●平成十九年度会費は、おかげさまで目標額を大きく上回りました。ありがとうございました。平成二十年度会費納入も引き続きご協力をお願いいたします。

寄 贈 図 書

『正覺山誓願寺の歴史と資料解説』 幸野 義夫(昭26卒)
『獨楽庵切抜帖』(全4篇) 富野巳代治(昭7卒)
『強く美しく生きるには』 加藤日出男(昭21卒)
『ハエ学』 『アフリカ昆虫学への招待』以上二冊 佐々木 均(昭45卒)
『三十一字の戯言』 『古希老の謔言』 『回顧・展望・モノローグ』 『祖国を思う憂い言』 『美しかった国、日本』 以上五冊
今野 陽三(昭20⑤卒)
『映画監督ってなんだ!』 成田 裕介(昭46卒)
『離島病院奮戦記』 安田 敏明(昭53卒)

いたします。

哀 悼 (敬称略)

謹んでご冥福を
お祈り申し上げます。

19年 4月 工藤 昭(昭29)
7月 利部 寿(昭40)
10月 石川 清(昭4)
12月 山内 通康(昭42)
20年 1月 荒川 秀晴(昭12)
2月 益子 勝利(昭18)
2月 鈴木英二郎(昭20⑤)
2月 加藤源二郎(昭12)
2月 菊池壬子郎(昭5)
3月 荻原 隆司(昭11)
3月 渡辺幸四郎(昭22)

4月 八柳 正和(昭22)
4月 細矢 達雄(昭13)
4月 平松 則幸(昭26)
5月 加賀谷辰雄(昭20④)
5月 野口 正治(昭31定)
5月 佐藤 和男(昭21)
6月 藤島 融(昭36)
6月 館山松之助(昭8)
6月 三浦 鉄男(昭14)
7月 柏谷 春男(昭28)
7月 辻 兵吉(昭19)
7月 吉岡 清種(昭26)
7月 金子 忠蔵(昭22)
7月 黒木 俊貴(昭19)
7月 菅原権之丞(昭25)
7月 高田 壽(昭18)
7月 真田 壽朗(昭29)
7月 岸本 惇(昭17)

8月 平山 章彦(昭35)
8月 藤原 栄一(昭54)(旧職員)
8月 松田 淳(昭48)
8月 江川 忠夫(昭29)
8月 伊藤 昭彦(昭38)
8月 長谷川兼次郎(昭31定)
8月 加藤 洋一(昭29)
8月 高村 文子(昭45)
8月 金 正治(昭28定)
8月 佐藤 彌(昭16)
8月 横山 孝(昭30)
8月 松塚 則明(昭19)
8月 荻原 剛(昭29定)
8月 中田 史郎(昭14)
8月 三田 直(昭45)
8月 清水 昭男(昭46)
8月 三浦 恒裕(昭25)

11月 山口 邦夫(昭18)
11月 相沢 重正(昭14)
11月 坂野 隆(昭28)
11月 佐藤 三吉(昭16)
11月 刈田良太郎(昭16)
11月 杉山 靖(昭51)
11月 芳渴 一彦(昭26)
11月 金子 吉雄(昭29)
11月 西田 繁(昭27)
11月 佐藤 洋三(昭26)
11月 廣島 榮吉(昭18)
11月 安田 猛(昭23)
11月 森山勇一郎(昭13)
11月 金澤 敏光(昭27)
11月 畠山 信一(昭42)
11月 館山 昭一(昭20⑤)
11月 天野 馨(昭17)

●哀悼欄は、「だより」の原稿締め切り時点で判明している分を掲載してあります。その後に分かった分は次号になります。したがって同じ月の分が、二回に分割されて掲載されることもあります。なお、一年以上過ぎた分は載せておりません。いづれにしても、不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

●同窓会ホームページに、「同窓会だより」を第七十八号から載せてあります。画面上で見づらい場合は、プリントアウトして下さい。